

平成25年度 島田療育センター 公開シンポジウム

発達障害児の支援

について考える Part3

家庭と地域をつなぐ

LD、ADHDなどの発達障害は、周囲の理解と適切な支援があれば様々な能力を発揮していくことができます。当シンポジウムは、家庭と地域社会を一つの「生活の場」と捉え、発達障害児が安心して生活できる社会を考える機会とすべく企画いたしました。

シンポジウム 内容

基調講演 上野 一彦 氏 (東京学芸大学名誉教授/日本LD学会理事長)

話題提供 西村 南海子 氏 (NPO法人発達凸凹サポートデザインかたつむり理事長)

寶田 邦子 氏 (元スクールカウンセラー)

足立 実 (島田療育センター 心理判定員)

- ◎主催：島田療育センター
- ◎後援：読売光と愛の事業団、多摩市、八王子市
- ◎助成：草の根事業育成財団、読売光と愛の事業団
- ◎実施日時：平成26年2月11日(火・祝) 13:00~16:00
- ◎会場：ベルブ永山 ベルブホール
- ◎対象：地域住民や関係機関など
- ◎参加定員：200名(申し込み先着順)
- ◎参加費用：一般・1000円
：学生・500円
(受付の際に、学生証の提示が必要です。)



◎お申し込み方法◎

- ホームページ：<http://www.shimada-ryoiku.or.jp>
メールフォームからのお申し込みができます。
 - FAX・042-374-2089 (支援部地域連携情報室)
ホームページから申込書のダウンロードができます。
 - メール：info-room@shimada-ryoiku.or.jp
件名は「公開シンポジウム参加希望」としてください。
- お問い合わせ 支援部地域連携情報室 TEL 042-374-2101
(電話受付 平日9時~17時)

心理相談室第9回講演会

思春期を見すえた 発達障害の子ども支援

今回は、かえつ有明中・高等学校スクールカウンセラーの池田聡子先生をお招きして、発達障害のお子さんの思春期にみられやすい問題やその対応についてご講演いただきます。

どの年齢のお子さんに関わる方にも、参考にいただける内容となっています。

日時：平成26年2月22日(土) 10:00~12:40

場所：島田療育センター(多摩) 厚生棟

参加費：1000円

申込〆切：2月14日(金)まで

ホームページの申込フォームまたはFAXでお申込ください。

ホームページ：<http://www.shimada-ryoiku.or.jp>

FAX:042-374-2089 (支援部地域連携情報室)

おのろせ！ デイケアセンターの利用者を募集中です！

南多摩地域在住の重症心身障害児・者の方で、幼児部は概ね3才から就学前、青年部は18歳以上の方が対象です。

通所日は月~金(週1~5日)、通所時間は幼児部が9:30~15:00、青年部が9:40~16:00となります。

日常生活指導や各種相談、リハビリ訓練、昼食及び青年部のみ送迎バスと入浴サービスをご利用いただけます。

詳細は地域連携情報室までお問い合わせ下さい。

(TEL 042-374-2101)

地域療育等支援事業のご案内

①外来療育等支援事業(療育相談)

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

②施設支援一般指導事業

発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

③訪問療育等支援事業

地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

費用は無料です。窓口は『地域連携情報室』

TEL042-374-2101(直通)

編集後記

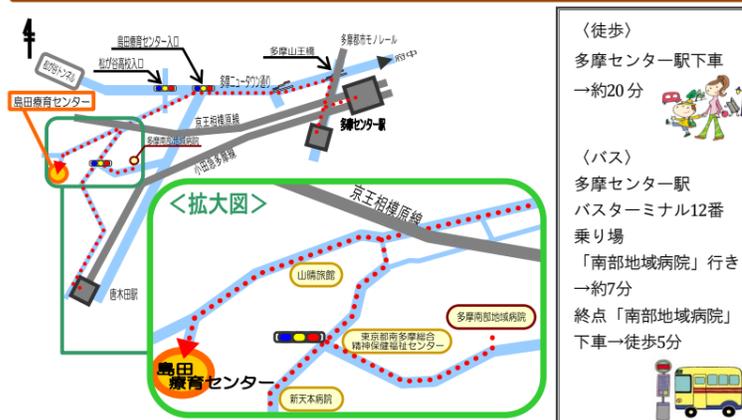
千葉県浦安市の成人式は、東京ディズニーランドで行われていることで有名ですが、同県成田市でも今年、「成田らしい場所」と、成田空港のターミナルビル前で成人式を実施したそうです。当日参加した新成人は、客室乗務員などからの激励や、出発ロビーなどで旅行客らとの記念撮影、仲間同士での会話などで大いに盛り上がり、初フライト、「成田発、夢直行便」は無事にテイクオフしたそうです。私達もこのフライトに便乗できたらいいですね。(湯本)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会

島田療育センター 支援部 地域連携情報室

住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

電話：042-374-2071 (代表)



NEW ネットワーク し ま だ SHIMADA

Network Shimada

発行者 島田療育センター
院長 木実谷 哲史

島田療育センター 福祉用具情報交換会

くつろぎフェスタ 2013



くつろぎフェスタは島田療育センター内にある「情報資料室くつろぎ」が行うミニ福祉機器展で、今回で3回目の開催となります。福祉機器展というと、国際福祉機器展をはじめとする大規模な展示会が毎年行われていますが、都心で行われることが多いため会場までの移動が大変なこともあります。くつろぎフェスタは、近隣地域の方が気軽に参加できるように、小規模ではありますが島田療育センターにて開催を続けています。

今回は平成25年11月17日(日)に、当センター厚生棟とデイケアセンターの2会場を使って実施しました。今年の出展企業は、車いす、栄養補助食品、介護用品、コミュニケーション機器、スヌーズレン用品などを扱う10社でした。

A会場の厚生棟には、車いすや座位保持装置などのブースと、とろみ調整食品や栄養補助食品を扱うブースが出展しました。でく工房やケイアイの車いすや、コーヤシステムデザインの「マジックカーペット」などに実際に乗って試すことができました。また、栄養補助食品を扱う明治、クリニコ、ネスレ日本の3社では商品の説明と試供品の提供もあり、来場者はたくさんのお土産をもらって帰られたようです。

B会場のデイケアセンターには、クリエイティブオフィスの電動リフト、白十字の介護用品、アクセスインターナショナルのコミュニケーション機器や文房具、コスインターナショナルのスヌーズレン用品が展示されました。実際に手にとって見ることができ商品が多く並べられており、皆様興味を持って見てくださったようでした。



B会場(デイケアセンター)

今回は地域の方・入所利用者様合わせて約70名と参加は少なかったものの、中には開催と同時に来場された方や、目的の商品を決めて見に来てくださった方もいらっしゃいました。2年に1度の開催ではありますが、今後も地域の方のお役に立てるよう開催を続けていきたいと思っています。開催にあたりご協力いただいた企業の皆様、当日ご来場いただいた皆様、助成をくださった草の根事業育成財団様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

(リハ工学士 神田水太)



A会場(厚生棟)



ペアレント・トレーニング 第2回フォローアップを開催しました

秋色日毎に深まる10月23日、ペアレントトレーニング卒業生の皆様にお集まりいただき、全体フォローアップを行いました。

フォローアップは二部構成となっており、第一部は疑似体験など地域で発達障がい啓発のために活躍されているキャラバン隊にじのかけはしの皆様にご公演いただきました。公演では、『どうしてうまくできないの?』と題し、軍手をはめてシールを貼る、手先の不器用さの体験を行いました。

参加者の方から「子ども自身が日々見えない努力を続けていることがわかった」、「気持ちの余裕をもって接する心がけたい」のご感想をいただき、お子さんの視点に立つて考えることの大切さを改めて感じる機会となりました。

また、様々な個性あふれるカエルが登場する紙芝居『十人十色なカエルの子』や、日々のお子さんとの関わりを綴った詩『幸福だなあーと想うこと』の朗読も、心に響くお話でした。

第二部のグループに分かれての話し合いでは、“最近の悩み事”“お役立ち情報”などのテーマについて、悩み事の解決に向けてアイデアを出し合われたり、情報共有をされました。「前向きになれた」、「初心にかえて自分を見つめなおすことができた」のご感想から、貴重な機会となったことがうかがわれました。

ペアレントトレーニングは年に2回講座を開催しており、年間を通して募集しております。お申し込み等についての詳細は掲示やHPをご覧ください。

(心理判定員 稲石ひろみ)



第一部:公演「十人十色なカエルの子」



第二部:グループワーク



今年度、当センターの新規事業として、重度の重複障害をお持ちの小学生から高校生を対象とした「放課後等デイサービス」を開設しました。

1日の定員は5名で、利用者様其々で週1~2回の放課後、デイケアセンターの一室を利用して、水分補給やトイレケア、必要に応じて医療ケアを提供しています。大型紙芝居や絵本の読み聞かせ、布遊び、音楽に合わせて身体を動かす等の活動も組み込み、短い時間の中でも楽しく安心して過ごしていただけるよう心掛けています。

また多摩桜の丘学園の在校生は、学校から当センターまで、医療ケアにも対応した通所バスをご利用いただけます。

放課後等デイサービスの様子 →

開設当初は、放課後ということもあり、学校から帰ると疲れ果てて眠ってしまう利用者様が多かったのですが、今では他の学校のお友達やスタッフとの関わりを楽しんで色々な表情を見せてくださるようになりました。夏休み中は日中へ時間をずらしてサービスを実施しましたが、昼食の他、デイケアセンターのスタッフや利用者様との触れ合い等、普段とは違ったひとときを楽しく過ごされていました。

今年度は定員数が満員で、ご利用をお待ちの待機中の方が既に多数いらっしゃるため、新規のお申し込みは現在受付を休止しておりますが、今後地域のニーズにお応えできますようスタッフ一同努めて参ります。ご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

(看護師 宮城理恵、社会福祉士 市川香織)



連載「行動はメッセージ ~ 気づいてよ、僕たちの気持ち ~」

その4 適切な行動で良い結果を与える ~代替行動分化強化~

今まで、教室で先生に問題を出された時に、席を立ち大きな声を出して手を挙げる、子どもの不適切な行動を例にとってお話をしてきました。そして、「席を立て大きな声を出せば」、「先生はおれを当ててくれる」という誤学習のパターンを成立させないために、「席を立て大きな声を出しても」「無視をする(先生には当てられない)」ことで、「良い結果(当てて欲しい気持ち)」が得られないようにする、**計画的無視**というテクニックが有効であることをお話ししました。しかし、計画的無視だけでは、子どもの「当てて欲しい気持ち」を満たしてあげることはできません。

そこで必要となるのが、「**代替行動分化強化**」と呼ばれるテクニックです。名前の通り、(不適切な行動の)代替となる行動だけを強化する手続きです。ここでの不適切な行動は、「席を立て大きな声を出す」ですので、それと同じ機能を持つ、適切な代替行動を子どもに教えて、その行動だけを強化していくのです。この子どもの場合の、「席を立て大きな声を出す」行動の機能は、「注目要求(当てて欲しい気持ち)」ですか

ら、社会的に正しいやり方で、注目要求が満たされるようにすれば良いわけです。

まずは、正しい挙手のやり方を子どもに教えます。反対に、不適切な行動では指名しないことも併せて子どもに伝えておくといよいでしょう。そして、授業中は正しいやり方で挙手した時だけ指名するようにすればよいのです。これが、代替行動分化強化です。

正しい挙手のやり方を形成するためには、最初は、正しい行動が見られたら極力指名するようにして、その行動を強化していく配慮が必要となります。しばらくこの対応を繰り返していくことで、徐々に、正しい行動が形成化されていくと思います。でも、永遠にその子どもばかりを指名し続けるわけにもいきません。ですので、次の手を考える必要があります。では、次の手とは、いったいどのようなものなのか、それはまた、次回にお話しします。

(心理判定員 山本秀二)



目の体操教室 ~ビジョントレーニング~

「黒板を写すのに時間がかかる」、「教科書を読み飛ばしてしまう」、「漢字がなかなか覚えられない」、「マスから字がはみ出してしまう」このような悩みを持つお子さんはいませんか?このようなつまずきの背景には、目を効率的に動かせない、物の形や向きを正しく捉えられないなど、視え方の問題が関係している場合もあります。

『目の体操教室~ビジョントレーニング~』では、こうしたつまずきを持つ年長~小学3年生のお子さんを対象に、評価と個別トレーニングを行なっています。

評価では、見たいものに視線を向けたり目で追ったりする力を調べる検査や、形や空間配置などの視覚情報を理解する力を調べる検査を行います。読んだり書いたり見つけたりする課題なので、小さいお子さんや勉強をやりがらないお子さんでも、無理なく取り組むことができます。

個別トレーニングでは、おもちゃやゲーム、プリントなどを使いながら、お子さんの興味や特性に合わせた指導を行っています。また、継続して行うことが効果的であるため、ご家庭でも楽しく取り組んでいただけるような遊びや課題をご紹介します。

始まったばかりの教室ですが、お子さんやご家族と一緒に楽しくトレーニングを行いながら、お子さんの自信につながるようサポートしていきたいと思えます。

(心理判定員 正治幸恵)



教材例

